

地域のホールの発表会

社会福祉法人合掌苑
デイサービス輝の杜
岩崎 茂

1、はじめに

デイサービスのお客様に何かをして差し上げるというスタンスからできることはやってくというスタンスに変革をしました。もちろん、自立支援が目的なのですが、お客様からサービスの低下になっているのではないかとのご意見も頂きました。

ドライバーをできる方はやってくなど小さい所から変えていきました。お客様から今までのサービスの方が良かった。ここにくれば楽なのに・・・という声を頂きました。歩けるようになるなど目標を掲げてもそれはあくまでサービス提供者側からの視点 何のために歩けるようになるかその先がないことに気付きました。

2、事例や取り組みの紹介

お客様の趣味や特技を発表する場を作るのはどうかと仮説をたてました。趣味や特技を持っていない方は、経験したことを話す場を作るのはどうかと考えました。

月に2回輝セッションという発表会を行いました。舞台も借りてきてそこで歌ったり、作ってきた俳句を発表したり、アコーディオン、ハーモニカ等々。

そこでマッカーサーに会った時の話をして頂く方など。皆様目をキラキラしてお話してくださいました。奥様への日頃の感謝の言葉、息子様に対する気持ちなども併せて発表してくださいました。そのような普段のお客様と違った一面を見る機会は重要だと思いました。

1回目を行ったところで継続していこうと決めました。そこで同じ地域にある瀬谷公会堂で発表会をやろうと思い、お客様に発表しました。そうするとお客様は「そんなことは無理よ。」「私達はここにくるのがやっとなんだから。」と控えめなご意見を頂きました。

しかし、私達は瀬谷公会堂で発表会を行うことを決めて行動していきました。

3、考察

私達は普段の生活の中で、小さな目標をたてて生活している。例えば、この日に映画に行くとかコンサートに行くとか外食するなど。それがあから日々の生活にメリハリができるのではないかと。デイサービスに来ているお客様もデイサービスが目標になって頂くことありますが、継続すればそれは日常になってしまいます。そこで非現実的な瀬谷公会堂で発表会をするという目標をみんなで持ちました。これはスタッフにとっても非日常的なことでドキドキするものでした。

お客様から頂いた言葉で印象に残っている言葉は、「この年になって今まで緊張したなかで一番よ。」「緊張しないと思ったけど、緊張しちゃったよ。」など。

なかでも歩いて舞台にあがりたいたいとリハビリに取り組みされた方。それはいつまでという時間の締切が明確でした。それもあつてか今までとは全く違った思いでリハビリに取り組みされていたようでした。

4、おわりに

お客様との会話がとても前向きになってきたと思います。輝いていた時の話をされる方は、

本当に生き生きしていました。趣味の作品を持って来て下さったり、ハーモニカの練習をされる方 みんなで一つの目標に向かうことは本当に楽しい時間になりました。私たちは介護が必要になったお客様と接していますが、そこに至るまでには本当に色々なことを経験されているという当たり前の気付きにもなりました。2回目は1月を予定しています。

瀬谷公会堂という場所の設定も良かったと思います。今までは見る側で客席に座っていた場所に自分が立つのですから、それは非日常です。

舞台に立ったことがある方ももちろんいらっしゃいましたが、大人数でフラダンスの出演された方でした。基本は1人で出演するのでそれは特別な瞬間だったと思います。

地域の中にあり、みんなが知っている公会堂で、地域の方も見に来て下さり涙を流される方もいらっしゃいました。

私達が今回の取り組みを通じて年を重ねることは素晴らしいことで、年を重ねるほど価値があることなんだということです。

お客様がキラキラ輝いているからこそ私達職員もやりがいを感じてお手伝いさせていただけるのだと感じています。